

野外運動研究室ニュースレター

編集：筑波大学野外運動研究室広報係
発行：筑波大学体育科学系野外運動研究室
〒305-0005 つくば市天王台 1-1-1
TEL/FAX 029-853-2729
URL: <http://yagai.taiiku.tsukuba.ac.jp/>

＜巻頭言＞

弱い人と共に歩くということ

小田梓

つくばに来て10年目の春を迎えました。この巻頭言を書かせていただくのも最後の機会かと思っておりますので、つくばの野外研で過ごした日々の雑感をまとめさせていただきます。

野外研に入って少し経った大学3年生のとある日、指導教員の先生にこんなことを言われました。「登山は弱い人に合わせて歩くんだよ」と。当時、まだ競技をやっていた私は、この意味がまったくわかりませんでした。「なんで？弱い人はトレーニングが足りないのだから合わせる必要ないじゃん」と。

それから数年、さまざまな人と歩きました。時には実習で同期の仲間にライバル心を燃やしなが、時にはキャンプで子どもたちと雨の中をずぶ濡れになりながら、時には一人で森の住人に出会いながら……。はじめのうちは「弱い人はそれ以上速く歩けないから、安全のためにも弱い人に合わせて歩く必要がある」と思っていました。けれど、最近やっとそうではないことに気付けた気がします。弱い人と歩くということは、その人とつながるということ。その人の世界を感じながら歩くということ。そ

れをするためには、私自身が純粹で謙虚であり、なによりその人を心から尊重する本当の意味での強さを持たなければならないということ。そしてそれは容易ではないということ。

野外教育というのは、人とそして自然と関わる分野です。自分本位の考えや強者の立場では決してうまくいきません。自然を、そして人を感じる力を最大限に広げながら、弱い人と共に歩き続けられる自分で在りたいものです。

＜研究室関連授業（1学期）／研究室連絡＞

○ 学群関連科目

・ 野外運動方法論演習Ⅰ（キャンプ）木曜4、5限および集中（7/31～8/6）

○ 大学院関連科目

・ 野外教育・スポーツ実習Ⅰ（キャンプ）夏季休業中集中（8/17～8/24）

・ 野外教育・スポーツ実習Ⅱ（水辺）1,2 学期 集中

・ 野外教育・スポーツ指導実習Ⅰ（キャンプ）1,2 学期及び集中

・ 野外教育・スポーツ指導

実習Ⅱ（水辺）1,2 学期および集中

第5回

京都 YMCA 総主事 神崎清一

（筑波大学大学院 1988年修了）

関西の大学生活の4年間を通して専攻分野で学び、学内の野外活動分野のクラブ活動、行政機関の青少年育成施設での指導員としての経験をしたのち、更なるステップアップを目指して、新しい学び舎として選択した「野外運動研究室」に一員として受け入れていただきました。その年は学部の一学期の皆さんが大学院生として多く入学され、他大学からの学生として末席に入れていただいたのですが、先生方や院生、学部生、更には卒業生の方々の実習やバラギキャンプで暖かく見守っていただき、今あらためて振り返りますと、多くの働きの場面や機会を作っていただき、皆さんで育てていただいたというのが実感です。

野外での活動や研究方法の多様性は勿論、歴史ある研究室から輩出された人材の豊富さにも驚かされた3年間でもありました。しかし、キャンプの楽しさや対象理解やキャンプカウンセリング、人を大切にすること、そしてキャンプの可能性を信じていることは研究室生の皆が共通にもっているもので、大学院を修了後の「青少年育成」を使命としたYMCAでの働きや生き方の大きな財産となっています。

また大学院時代は、せっかく特別に延長した学生生活でしたので、研究室以外の民間団体を始めとしたさまざまなキャンプに、無節操にかつ食欲に参加したことも大きな経験となりました。

現在は京都のYMCAで野外・体育活動を中心とした青少年育成、キャンプ場や研修施設、日本語学校や福祉科、英会話などをもつ専門学校、障がいのある方々への支援、そして学生を始めとしたボランティアの養成などを行っています。とはいえ、現在は総主事・校長という対場で組織の管理運営、財務の仕事が多くで現場に出たくてたまらないという気持ちで溢れています。

その分の一部は、日本キャンプ協会での役割をいただいてブラッシュアップさせて頂いています。ぜひ見かけましたらお声掛けください。



（リレーコラム）野外研のOBsの方からのコラムを載せていきます

＜野外運動研究室新専攻生紹介＞

○岩谷優志

実習などを通じて、野外に対する様々な知識を獲得し、教育の現場に貢献できるように頑張ります！

○遠藤立野／蹴球部

私がこの研究室に入ろうと思ったのは、自然が好きで、自然とより近しくなりたいからでした。というのも、今まで自然との関わりの中で、私が自然の中での能力を十分に持っておらず、また自然のことをよく知らないということを感じたのです。なのでこの研究室では、自然の中での活動を通して、また自然そのものから多くを学び、教わり、単に知識だけでなく総合的な人間力を高めていきたいです。

○辻野里奈

私は小学校から高校までバスケットボール一筋だった反動か、大学では新しいことにたくさん挑戦したいと思っています。野外運動研究室に入ったのも今までやったことのないことにたくさん挑戦出来ると思ったからです。たくさんの方に積極的に参加してたくさんの方の事を学びたいです。よろしくお願ひします!!

○中川佳美／陸上競技部

初めての体験ばかりなので、積極的にいろんな活動に参加していきたいです。

○廣谷奈々美／硬式庭球部

野外研の新専攻生として迎えていただきありがとうございます。既に何回か活動に参加させていただいて、学ばせてもらっています。これから二年間野外研の一員としてできる限り色々な活動をやってみたいと思います。よろしくお願ひします。

○吉田健亮／硬式庭球部

野外研と庭球部の二毛作で大学生活を充実させます。精一杯頑張って卒論も乗り切ります。よろしくお願ひします。

＜授業関連報告＞

○ 野外教育・スポーツ論実習Ⅲ（雪上）

渡辺拓磨 (MC2)

3月9～14日の日程で長野県長野市戸隠において実施され、野外運動論、体育社会学、特殊体育論の研究室から各1名の計3名のMCが参加した。この実習では「スキー・人・自然」をキーワードとして、学習者の技術レベル及び地形等に応じた各種スキー指導法について習得し、指導者としての資質の向上を図ることを目的とした。

実習の最初の4日間は2班に分かれてアルペンスキー講習が行われた。雪に恵まれ深雪も多く体験することができた。夜には宿の武さんから「戸隠の自然」、金子先生から「スキー技術・雪上キャンプ」井村先生から「スキーツアーについて」の講義を受けた。5日目にはクロスカントリーツアーと雪上キャンプを行った。キャンプ場では雪洞を掘り夜を過ごした。6日目は個人別自由活動を行い、夜にはパーティーで実習全体を振り返った。

少人数での実習だったが、参加者それぞれが戸隠で様々な「スキー・人・自然」と深くふれあい、考え、学ぶことができた実習となった。

○ センター体育 スノースポーツ

岡田成弘 (DC3)

平成22年3月9日(火)～13日(土)にかけて、新潟県湯沢町岩原スキー場で、共通体育「スノースポーツ」が行なわれた。参加者は大学院生も含めて全部で61名で、実習中はスキー班が5班、スノーボード班が6班で講習が行われた。野外運動研究室からは、補助員として、向後、佐藤寛、岡田が参加した。

今回の実習では、雪が降る日もあり、晴れる日もあった。雪の状態も、新雪の日もあれば、水分を多く含んだ春雪の日もあった。日替わりの天候の中、参加者は少人数制の班別講習の中で、思いっきりスキー・スノーボードを楽しんでいるようだった。特に、3日目の午前中は、どの班も前夜に降り積もった非圧接の新雪に挑戦していた。多くの参加者が新雪は初めてだったようで、その難しさや楽しさを語っている彼らの表情が印象的だった。

今回は、補助員と言う立場で参加して、大学内外の先生方や準研究員のひととふれあう機会にも恵まれた。日中は、仕事がない時は先生方の指導法を勉強させてもらい、宿舎ではスキー・スノーボードのことや大学のこと等様々なお話を聞くことができた。

個人的には、スノーボードの技術論はこれまでふれたことがなかったので、今回の実習でスノーボードの楽しさや難しさを知れたことは大きな収穫だと思う。スキーの準指導員を取得してすぐの実習だったので、これからは自分も指導者の

側でスキーを始めとしたスノースポーツの普及に貢献していきたいとモチベーションがあがる実習となった。

○ 2010年度整備実習

向後佑香 (DC1)

平成22年4月5日(月)～7日(水)にかけて、野性の森整備実習が行われた。整備実習は、野性の森にある施設・用具等の点検、補修、数量チェックをすると共に、用具の名称、使い方、メンテナンス方法を覚えることと、室員同士のコミュニケーションを図ることを目的としている。

本年度は新専攻生をはじめ多くの学群生が参加してくれた。複数グループに分かれてエレメントの補修や備品チェック、工具の動作確認などを行ったが、野外での活動をイメージしたり、道具に対する新しい知識を得るなど、今後につながる良い機会になったのではないと思う。

野外の活動にとって装備は、命を預ける大切なものである。ただ何気なく使用するのではなく、今後は是非「これはどう使うんだろう…」とか、「ちょっと壊れてきているなあ」、「もっとこうした方が使いやすくなるのになあ」という気持ちをもって使用して欲しいし、それだけで今後吸収できるものがぐっと変わってくると思う。道具の使い方や管理の仕方は、誰かが崩すと次の人も崩れてしまうのでその一人目にならないように全員が気をつけて、お互いが気持ちよく使えるようにしていきたい。



＜課外活動関連報告＞

○ WEA カンファレンス

荒木恵理 (DC3)

WEAとは、Wilderness Education Associationというアメリカの野外教育指導者養成団体である。2010年2月18～20日の日程で、WEA National Conferenceが行われた。野外研から、荒木、向後の2学生と岡村先生の3名でチームジャパンを結成し、アメリカに遠征した。大会が行われたのは、コロラド州のロッキー山脈の玄関口の街として知られる、Estes Parkにある”YMCA of the Rockies”というところで、これぞアメリカというような広大な敷地にある充実した施設のなかで行われた。参加者は総勢200名程度とのことで、主にアメリカからの参加者だったが、海外からは同じアジアの台湾からも学生が参加していた。今回、知り合いの呼びかけで、その台湾の大学からの参加者やアメリカの大学生など10数人で同じキャビンに宿泊し、たくさんの交流をもつことができた。台湾やアメリカの大学のなかでの野外教育指導者の仕事の話や、台湾の野外教育を学ぶ学生事情など、おもしろい話をたくさん聞くことができた。また、大会のなかでは、さすがに指導者養成団体ということもあって、

野外教育指導に関わる実践的なワークショップが多く展開されていた。ワークショップはすべて、参加者が企画してコーディネートしているので、課程認定を受けている大学や民間団体の指導者が持っているノウハウの紹介や、自然観やジェンダー論など多くの場で語られているような議題に対して、ワークショップ参加者でディスカッションする機会があり、おもしろい時間を過ごすことができた。個人的にはやはり英語力の向上が課題となった。会話程度はなんとかこなしても、少し踏み込んだ話をするときについていけなくなってしまうことがあり、とても残念だった。これからも自分でたくさん機会を作って世界を拓いていきたいと感じた。

○ 平成22年度茨城県スキー準指導員検定

志賀亮太 (UG4)

平成22年2月28日、平成22年度茨城県スキー準指導員検定会が山形県の米沢スキー場で開催された。小田先生、岡田、志賀の3名がスカディーズスキークラブとしてこの検定会に参加した。結果は3名全員が見事合格することができた。また、本研究室のOBOGの方々も参加していたり、他の県内スキークラブの方も大勢いたり、有意義な交流を持つことができた。

茨城県準指導員検定は12月～2月に行われる全4回の講習会のうち、3回以上参加しなければ検定を受けることができないシステムである。実技講習はもちろん、理論講習などもあり、その講習会で得た技術体系を各自のトレーニングで身につけていった。そういったことから今シーズンは準指導員検定のためのトレーニングにほとんどを費やしたと感じる。

今年度からSAJの技術体系が変わり、それに伴い検定の内容も変わった。講習会でも、指導を頂く講師の方々から説明する内容が今までの知識とは違った

ものであり、理解するのにかなり苦労した。

バッジテスト1級までは、自分の滑りを考えるだけで良いが、指導員の立場になれば、そこに他人の滑りを見る能力、他人に正しい滑りを見せる能力が必要となる。「一般のスキーヤーにとって、準指導員も正指導員も同じ指導員だよ」と講師の方が言っていた。今後は指導員であるという責任をしっかりと持ち、たとえ指導場面ではなくても、滑りはもちろんゲレンデでのマナーといった面で模範となるようなスキーヤーを目指していきたい。

○ 神楽ヶ峰バックカントリースキーツアー

佐藤万里子 (UG4)

3月21日(日)22日(月)の日程で、苗場スキー場、かぐらスキー場及びその周辺にてバックカントリースキーツアーが行われ、本研究室の荒木、向後、佐藤、廣谷を含め計6名が参加した。

1日目、荒木、廣谷は別行動でアルペン講習を行った。その他のメンバーはサイト・雪洞作り、ピーコン講習、プチバックカントリーツアーを行った。ツアーの途中から悪天候に見舞われ、吹雪の中での活動となった。この晩は雪洞で宿泊した。

2日目は快晴。昨晚の積雪で多少雪崩の心配があったが、良いコンディションの中でツアーをすることができた。みつまた駐車場からゴンドラを乗り継ぎ、リフトトップからシールを付けて神楽峰(標高2029.6m)を目指した。水平距離2km、標高差400m、頂上まで約2時間半をかけて登った。神楽峰の目の前には苗場山があり、その他周辺地域を一望でき素晴らしい景色だった。また頂上では岡村先生による弱層テストの講習が行われ、雪の断面を使い、雪崩の危険性を確かめる数通りのテストを学んだ。その後シールを外し尾根を滑り降り、駐車場を目指した。登りに対し、降りは一瞬の様に感じた。

今回のツアーでは去年の雪上実習では学べなかったことをたくさん学ぶことができ、内容がとても充実したツアーであった。

○ 2010 つまごいスキーキャンプ

梶田歩 (UG4)

3月27日～31日にかけて、群馬県パルコール嬭恋スキーリゾートにてつまごいスキーキャンプを実施した。今年は参加対象を小学3年生まで広げたところ、キャンパー72名、スタッフ13名と80人を越える大所帯となった。

キャンプ中は雪質にも恵まれ、どの班も充実した5日間を送ることができた。毎年恒例となっている野地平ツアーが季節外れの大雪の影響で1日順延となるなど多少の変更はあったものの、ツアー当日は晴天にパウダースノーという素晴らしいコンディションに恵まれ、キャンパーたちは思い思いに雪を楽しんでいた。つまごい検定はツアー順延の影響もあり3日目午後と4日目のツアー前の二組に分けて行われた。自分の実力を発揮できた子、発揮できずに悔しそうな表情を浮かべていた子、それぞれの表情がとても印象的だった。検定結果を聞き、キャンパー以上に大喜びするカウンセラーもいた。最終日の閉村式では、キャンパーを卒業する高校3年生から一言ずつこれまでのキャンプの感想を話してもらっ



た。彼らの言葉はとても重みがあり、野外での経験が人を大きく成長させることを改めて感じた。

今年のおまごいには、新専攻生3名とびわこ成蹊スポーツ大学野外スポーツコースの学生2名が初カウンセラーとして参加するなど、フレッシュな顔ぶれが集まった。これからも実践の場で一緒に活動できたらいいと思う。また今回のキャンプを通して、自分の成長と同時にそれぞれの課題を見つけることができた。それをこれからは活かしていきたい。

<課外活動関連告知>

○プロジェクトワイルド講習会

日時：5月24日(月)9時30分～21時

場所：中央区立総合スポーツセンター

主催：リードクライム株式会社

対象：18～35歳ぐらいまでの環境教育に興味・関心のある方

参加費：12000円

問合せ：リードクライム株式会社
pw@leadclimb.co.jp

○Think the river

～自然豊かな「荒川」を取り戻すために～

日時：4月23日(金)20時30分

場所：パタゴニア神田ストア

スピーカー：堂本泰章氏(財)埼玉県生態系保護協会 事務局長)

参加費：無料

問合せ：パタゴニア神田ストア
/03-3518-057



<スタッフ・参加者募集>

○きぬ看護専門学校

「教育キャンプ」

日程：4月22日(木)10時～23日(金)15時

場所：茨城県立さしま少年自然の家

内容：野外炊事、仲間作りゲーム、キャンプファイヤー、クラフトの指導

募集人数：1～2名

締切：4月14日(水)

問合せ：岡田/080-5642-4028

○実技理論実習(野外運動)ASE

日程：4月21日(水)1、2限

4月23日(金)1、2限

内容：ASE指導(班付カウンセラー)

問合せ：向後/090-9671-8573

岡田/080-5642-4028

○実技理論実習(野外運動)デイキャンプ

日程：5月26日(水)13時30分～27日(木)8時30分

内容：デイキャンプ指導(班付カウンセラー)

問合せ：向後/090-9671-8573

岡田/080-5642-4028

○2010立山バックカントリーツアー

立山雄山、剣岳、大日岳など雄大な景色のなかで、豪快に滑り降りる快感はたまりません。今シーズン最後のスキーみんなで楽しみましょう!

日程：2010年5月1日(土)～4日(火)

場所：富山県立山

参加費：12,000円(立山までの交通費別途)

内容：バックカントリースキー、雪上スキルトレーニング、雪中泊、温泉など

その他：スキル、装備など相談に応じます。連絡ください。

締切：4月23日(金)

問合せ：D3 荒木/j-araki0903@castle.ocn.ne.jp

○フリークライミングクリニック

期間：5月12日(水)～6月23日(水)

場所：筑波大学SPECクライミングウォール

参加対象：筑波大学内の学生、教員

活動内容：主としてクライミング初心者、初級者を対象としたフリークライミング講習を実施する。

その他：指導には、野外運動研究室員が当たる。3回で自立してトップロープクライミングができる技術を習得する。

問合せ：江越/090-5943-1069

○古賀志山フリークライミングツアー

日時：7月上旬1泊2日

場所：栃木県古賀志山

参加費：2000円(交通費、食費、交流会費)

参加対象：室員及び学内の学生、教員。但し、室員以外はフリークライミングクリニックへ3回以上参加した学生に限る。

活動内容：古賀志山クライミングエリアにてトップロープクライミングをする。参加者のレベルに応じて、リードクライミングにも触れる。夜は参加者同士の交流会を行う。

問合せ：江越/090-5943-1069

○野性の森ゆめキャンプ

主催：幼少年キャンプ研究会

対象：小学4～6年生

日程：

第1回 5/16(日)筑波大でカヌー練習

第2回 5/30(日)カヌーポロ(カヌーを使ったボールゲーム)体験

第3回 6/12(土)～13(日)1泊2日那珂川カヌーツーリング

問合せ：岡村研究室(A403、内線6339)もしくはD3 岡田

○藤村女子高等学校キャンプ実習スタッフ

日程：2010年7月5日(月)～9日(金)

場所：藤村女子高等学校八ヶ岳学習舎

内容：キャンプ指導

募集人数：10人程度

募集〆切：5月下旬

問合せ：岡村研究室(内線6339)もしくはD3 荒木(j-araki0903@castle.ocn.ne.jp)

<編集後記>

いよいよ新年度が始まりました。野外研も6名の専攻生が加わり、新しいスタートです。春、夏のキャンプ等々のスタッフ募集やオプションの募集も増えています。積極的に参加していきましょう!

志賀亮太(UG4)